

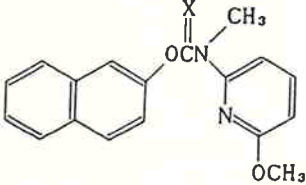
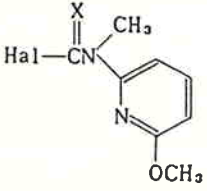
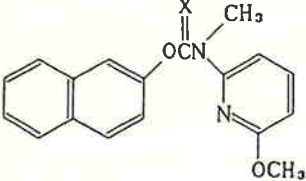
付

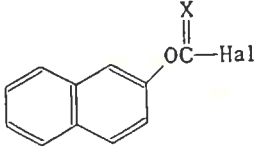
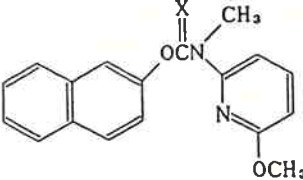
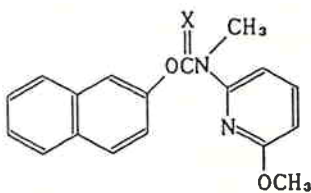
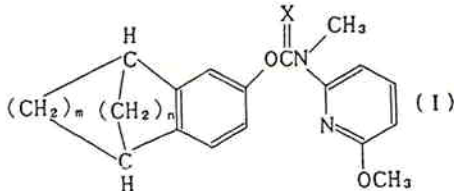
特許・実用新案登録一覽

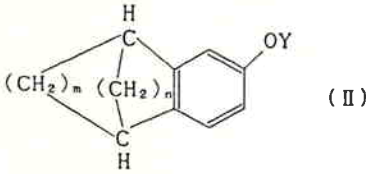
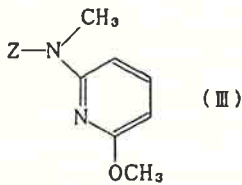
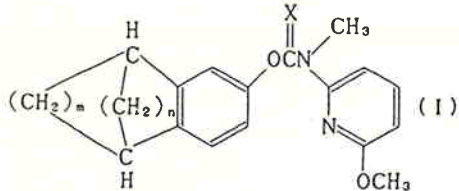
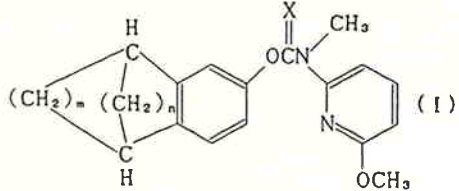
—昭和62年度—

〈日本特許〉 81件

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
1	52-151238 (52. 12. 16)	61-27382 (61. 6. 25)	1359295 (62. 1. 13)	光学活性アミノ酸エステル のラセミ化法	1 光学活性 α -アミノ酸アルキルエステルを、そのエステル部分のアルキル基と同一のアルキル基をエステル部分に有する低級脂肪酸アルキルエステル中において、アルカリ金属アルコールと接触させることを特徴とする光学活性アミノ酸エステルのラセミ化法。
	(高橋 里次, 戸井 滋二) (味の素株式会社, 財団法人 相模中央化学研究所と共願)				
2	56-107104 (56. 7. 10)	60-45710 (60. 10. 11)	1360184 (62. 1. 30)	電解槽	1 隔膜を用い陽極室と陰極室とを区割し、陽極室に塩化アルカリ水溶液を供給して陽極室より塩素、陰極室より水素並びに苛性アルカリを取得するに用いる電解槽に於て、鉄または鉄系金属よりなる陰極室、陰極及びその他の陰極室内部材表面の全てに、ニッケル塩を含むニッケルメッキ浴を用いてニッケルメッキを施し、次いでニッケル塩と含硫黄化合物とを含む活性ニッケルメッキ浴にて活性ニッケルメッキを施して成る電解槽。
	(杉森 正敏, 崎山 和孝 小柴 淳治, 毛利 隆 吉田 節夫)				
3	53-17730 (53. 2. 20)	61-23815 (61. 6. 7)	1361384 (62. 1. 30)	塗材組成物	1 脂肪族カルボン酸ビニル類から選ばれた単量体に該単量体と共重合可能な塩化ビニル、アクリル酸エステル類、メタアクリル酸エステル類からなる群より選ばれた一種以上の単量体と不飽和カルボン酸類から選ばれた単量体とを共重合させて得た分子量200~350未満の共重合体からなるワニスに、 (1) ワニスに対して30重量%以下の可塑剤 (2) 樹脂量に対して 5~10 wt% のホワイトカーボン (3) ホワイトカーボンの配合量に対して0.1~1重量倍量のアルコール類 (4) 樹脂量に対して1~3倍量の炭酸カルシウム、クレー、ベンガラ、カーボンブラックおよび黒鉛からなる群より選ばれた一種以上の充填剤を配合してなる塗材組成物。
	(武本 勝雄, 安藤 和夫)				
4	53-54085 (53. 5. 9)	61-24358 (61. 6. 10)	1361392 (62. 1. 30)	二次製品成形用セメント 組成物の製造方法	1 水硬性セメントを主体とし、それに有機質粘結剤のみを混合し、または有機質粘結剤および補強材を混合した後、セメント減水剤を溶解した水を加え、充分混練りし、続いて粘土を添加混合することを特徴とする二次製品成形用セメント組成物の製造方法。
	(今濱 敏信, 小坂勇次郎)				
5	54-23902 (54. 3. 2)	61-26811 (61. 6. 23)	1361422 (62. 1. 30)	塩素含有樹脂組成物	1 塩素含有樹脂に直径10ミクロン以下のものが90%以上を占める微粉末状のメラミン: 1~30重量部とアンチモンの酸化物: 1~10重量部、金属亜鉛換算で0.3~10重量部の亜鉛化合物を添加してなる難燃性、発煙性、熱安定性、塩化水素ガス発生性を改良し、かつ機械的特性の優れた塩素含有樹脂組成物。
	(山本 晃, 飯田 勝 大空 清治, 上田 邦生) (日産化学より譲受)				

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
6	56-80185 (56. 5. 28)	61-26922 (61. 6. 23)	1361466 (62. 1. 30)	ビニル系単量体の重合方法	<p>1 ビニル系単量体を水性媒体中で重合または共重合させるに当り、用いる重合缶の内壁に一般式</p> $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ CH_2=C \\ \\ COOR_2 \end{array}$ <p>で表わされるモノマー〔A〕(式中 R_1 は水素またはメチル基, R_2 は N-モノアルキル置換アミノアルキル基又は N-ジアルキル置換アミノアルキル基である) と, 一般式</p> $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ CH_2=C \\ \\ COOR_3 \end{array}$ <p>で表わされるモノマー〔B〕(式中 R_1 は前記同様の意味であり, R_3 はヒドロキシアルキル基である) を主体とするモノマー成分から構成された共重合体の溶液を塗布したのち, 重合反応を行うことを特徴とするビニル系単量体の重合方法。</p>
7	57-40759 (57. 3. 17)	61-30670 (61. 7. 15)	1364460 (62. 2. 9)	カーバメート誘導体, その製法および該化合物を有効成分とする除草剤	<p>1 一般式 (I) :</p>  <p>(I)</p> <p>(式中, Xは酸素原子または硫黄原子を示す) で表わされるカーバメート誘導体。</p> <p>2 一般式 (II) :</p>  <p>(II)</p> <p>(式中, Xは酸素原子または硫黄原子を示し, Hal はハロゲン原子を示す) で表わされる N-(6-メトキシ-2-ピリジル)-N-メチルカルバモイルハライドまたは N-(6-メトキシ-2-ピリジル)-N-メチルチオカルバモイルハライドと 2-ナフトールとを反応溶媒の存在下あるいは不存在下に反応させることを特徴とする。</p> <p>一般式 (I) :</p>  <p>(I)</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>(式中, Xは酸素原子または硫黄原子を示す)で表わされるカーバメート誘導体の製法。 3 一般式 (III) :</p>  <p>(III)</p> <p>(式中, Xは酸素原子または硫黄原子を示し, Hal はハロゲン原子を示す)で表わされる2-ナフチル ハロホルメイトまたは2-ナフチル ハロチオホルメイトと, 2-メトキシ-6-メチルアミノピリジンとを反応溶媒の存在下あるいは不存在下に反応させることを特徴とする。 一般式 (I) :</p>  <p>(I)</p> <p>(式中, Xは酸素原子または硫黄原子を示す)で表わされるカーバメート誘導体の製法。 4 一般式 (I) :</p>  <p>(II)</p> <p>(式中, Xは酸素原子または硫黄原子を示す)で表わされるカーバメート誘導体を有効成分として含有することを特徴とする除草剤。</p>
8	57-98485 (57. 6.10)	61-30671 (61. 7.15)	1364461 (62. 2. 9)	カーバメート誘導体	<p>1 一般式 (I)</p>  <p>(I)</p> <p>(式中, mは1または2を示し, nは0, 1または2を示し, Xは酸素原子または硫黄原子を示す。ただし, n=0 の場合は, -(CH2)n- が結合している二個の炭素には -(CH2)n- に代り, それぞれ水素原子が結合するものとする)で表わされるカーバメート誘導体。</p>

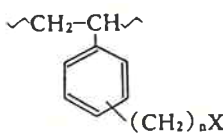
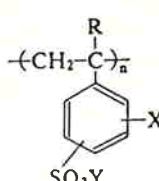
No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>2 一般式 (II)</p>  <p>(式中, Yは水素原子, ハロカルボニル基またはハロチオカルボニル基であり, mは1または2, nは0, 1または2を示す。ただし, nが0の場合は $-(CH_2)_n-$ が結合している二個の炭素には $-(CH_2)_n-$ に代り, それぞれ水素原子が結合するものとする) で表わされるフェノール誘導体を 一般式 (III)</p>  <p>(式中, Zは(II)式のYが水素原子のときハロカルボニル基またはハロチオカルボニル基であり, (II)式のYがハロカルボニル基またはハロチオカルボニル基のとき水素原子である) で表わされる2-メトキシ-6-アミノピリジン誘導体と反応させることを特徴とする。 一般式 (I)</p>  <p>(式中, mは1または2, nは0, 1または2を示し, Xは酸素原子または硫黄原子を示す。ただし, nが0の場合は $-(CH_2)_n-$ に代り, それぞれ水素原子が結合するものとする) で表わされるカーバメート誘導体の製造法。 3 一般式 (I)</p>  <p>(式中, mは1または2を示し, nは0, 1または2を示し, Xは酸素原子または硫黄原子を示す。ただし, nが0の場合は, $-(CH_2)_n-$ が結合している二個の炭素には $-(CH_2)_n-$ に代り, それぞれ水素原子が結合するものとする) で表わされるカーバメート誘導体を有効成分として含有することを特徴とする除草剤。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
9	57-166597 (57. 9. 27) (雲井堤)	61-28655 (61. 7. 1) 貞勝, 御手洗計治, 幸弘)	1364462 (62. 2. 9)	ビス [β-(N, N-ジメチルアミノ)アルキル] エーテルの製造方法	<p>1 一般式</p> $\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \text{CH}_3 \end{array} \text{N}^{\oplus} - \text{R} - \text{O} - \text{R}' - \text{N}^{\oplus} \begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \text{CH}_3 \\ \text{X}^{\ominus} \end{array}$ <p>(R及びR' は炭素数2~3個のアルキル基, Xはハロゲン原子) で表わされるビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) アルキル] エーテルのビスメトハライド化合物を, 大気圧下40~170°C の沸点を有し, かつ分子内に1~2個の一級アミノ基を有する脂肪族アミンと, 加圧下に反応させることを特徴とするビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) アルキル] エーテルの製造方法。</p>
10	57-181407 (57. 10. 18) (雲井堤)	61-28656 (61. 7. 1) 貞勝, 属秀雄, 幸弘)	1364463 (62. 2. 9)	ビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルの製造法	<p>1 ナトリウム N, N-ジメチルアミノエトキシド, N, N-ジメチルエタノールアミン及びビジオキサンからなる混合溶液中に, 無水硫酸蒸気を導入し, 100°C 以下の温度で一段反応させることを特徴とするビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルの製造法。</p>
11	58-22874 (58. 2. 16) (雲井堤)	61-28657 (61. 7. 1) 貞勝, 御手洗計治, 幸弘)	1364464 (62. 2. 9)	ビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルの製造法	<p>1 一般式</p> $\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \text{CH}_3 \end{array} \text{N}^{\oplus} - \text{CH}_2\text{CH}_2 - \text{O} - \text{CH}_2\text{CH}_2 - \text{N}^{\oplus} \begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \text{CH}_3 \\ \text{X}^{\ominus} \end{array}$ <p>(X はハロゲン原子) で表わされるビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルのビスメトハライド化合物と脂肪族アミンとの反応により, ビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルを製造するに際し,</p> <p>(a) 該ビスメトハライド化合物と一級または二級アミノ基を有する脂肪族アミンとの反応により得られる上下2層に分かれた反応液から, 上層液と下層液とを各々分離回収し,</p> <p>(b) 下層液中の水の量に対し, 10~55重量%の濃度となるようアルカリ金属水酸化物を下層液に添加して脂肪族アミンを回収し,</p> <p>(c) さらに, 回収脂肪族アミンを該ビスメトハライド体との反応に再使用することからなるビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルの製造法。</p>
12	58-60077 (58. 4. 7) (雲井堤)	61-28658 (61. 7. 1) 貞勝, 御手洗計治, 幸弘)	1364465 (62. 2. 9)	ビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルの製造方法	<p>1 一般式</p> $\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \text{CH}_3 \end{array} \text{N}^{\oplus} - \text{CH}_2\text{CH}_2 - \text{O} - \text{CH}_2\text{CH}_2 - \text{N}^{\oplus} \begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \text{CH}_3 \\ \text{X}^{\ominus} \end{array}$ <p>(X はハロゲン原子) で表わされるビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルのビスメトハライド化合物と, 大気圧下40~170°C の沸点を有し, かつ, 分子内に1~2個の第一級アミノ基を有する脂肪族アミンとの反応によりビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルを製造するに際し,</p> <p>(a) 該ビスメトハライド化合物と該脂肪族アミ</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>ンとの反応終了後、反応系中の水の量に対し、アルカリ金属水酸化物を10~55重量%となるよう添加し、</p> <p>(b) アミン類からなる液相を分離回収し、</p> <p>(c) 回収アミン類を大気圧下沸点 170°C 以下と 170°C をこえる留分に蒸溜分離し、</p> <p>(d) 大気圧下沸点 170°C 以下の回収アミン類を、該ビスメトハライド体との反応に再使用する、</p> <p>ことを特徴とするビス [β-(N, N-ジメチルアミノ) エチル] エーテルの製造法。</p>
13	55-101925 (55. 7. 25)	61-29603 (61. 7. 8)	1366768 (62. 2. 9)	改良した塩化ビニル樹脂の製造方法	<p>1 塩化ビニル単量体単独または塩化ビニルと共重合可能な単量体との混合物を懸濁剤および pH 調整剤を含む水性媒体中で懸濁重合するにあたり重合開始剤としてあらかじめベンゼン環に結合したアミノ基を有する化合物および異項原子として窒素を有する複素環化合物から選ばれる有機含窒素化合物でその一部を処理せしめた有機過酸化物を用いることを特徴とする粒子形状を改良した塩化ビニル樹脂の製造方法。</p>
14	53-44296 (53. 4. 17)	61-33915 (61. 8. 5)	1368919 (62. 3. 11)	有機および無機化合物の電解還元方法	<p>1 ケトン類もしくは芳香族アルデヒド類をアルコール類に、芳香族ニトロ化合物をニトロソ化合物および芳香族アミン類に、または二酸化炭素をカルボン酸もしくはアルデヒド類に電解還元するにあたり、該被還元物質をバナジウム化合物と支持電解質を溶媒に存在させた電解液に供給し電解還元することを特徴とする有機または無機化合物の電解還元方法。</p>
15	53-68361 (53. 6. 8)	61-36177 (61. 8. 16)	1368920 (62. 3. 11)	親水性分離担体およびその製造方法	<p>1 ペンタエリスリトールジメタクリレートの単独水性懸濁重合あるいはペンタエリスリトールジメタクリレートと親水性基および/または親水性基に変性し得る基を有するメタクリレートモノマーとの水性懸濁共重合により得られる多孔性球状ゲルでかつ、ゲルの細孔表面に第1級水酸基を有することを特徴とする親水性分離担体。</p> <p>2 ペンタエリスリトールジメタクリレートのみを、あるいはペンタエリスリトールジメタクリレートと親水性基および/または親水性基に変性し得る基を有するメタクリレートモノマーとを水と少なくとも2層を形成する有機溶媒およびラジカル重合開始剤の存在下で水性懸濁重合させることを特徴とする多孔性球状ゲルで、かつ、ゲルの細孔表面に第1級水酸基を有する親水性分離担体の製造方法。</p> <p>3 ペンタエリスリトールジメタクリレートの単独水性懸濁重合あるいはペンタエリスリトールジメタクリレートと親水性基および/または親水性基に変性し得る基を有するメタクリレートモノマーとの水性懸濁共重合により得られる多孔性球状ゲルでかつ、ゲルの細孔表面に第1級水酸基を有するゲルを、アルカリ水溶液中でケン化して得られたものであることを特徴とする親水性分離担体。</p> <p>4 ペンタエリスリトールジメタクリレートのみをあるいはペンタエリスリトールジメタクリレートと親水性基および/または親水性基に変</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>性し得る基を有するメタクリレートモノマーとを水と少なくとも2層を形成する有機溶媒およびラジカル重合開始剤の存在下で水性懸濁重合により得られる多孔性球状ゲルでかつ、ゲルの細孔表面に第1級水酸基を有するゲルをアルカリ水溶液中でケン化することを特徴とする親水性分離担体の製造方法。</p> <p>5 ペンタエリスリトールジメタクリレートの単独水性懸濁重合あるいはペンタエリスリトールジメタクリレートと親水性メタクリレートモノマーおよび/もしくは親水性基に変性し得る基を有するメタクリレートモノマーとの水性懸濁共重合で得られた多孔性球状ゲルまたは該ゲルをアルカリ水溶液中でケン化して得られる多孔性球状ゲルの第1級水酸基に親水性オキシラン化合物あるいはそのオリゴマーを付加反応により結合させて得られたものであることを特徴とする親水性分離担体。</p> <p>6 ペンタエリスリトールジメタクリレートの単独水性懸濁重合あるいはペンタエリスリトールジメタクリレートと親水性メタクリレートモノマーおよび/もしくは親水性基に変性し得る基を有するメタクリレートモノマーとの水性懸濁共重合で得られた多孔性球状ゲルまたは該ゲルをアルカリ水溶液中でケン化して得られる多孔性球状ゲルの第1級水酸基に親水性オキシラン化合物あるいはそのオリゴマーを溶媒および触媒の存在下または不存在下に付加反応させることを特徴とする親水性分離担体の製造方法。</p>
16	56-184423 (56. 11. 19) (折坂 朱山)	61-36074 (61. 8. 16) (克則, 清田 徹 秀雄)	1368934 (62. 3. 11)	水酸化アルカリの製造方法	<p>1 陽イオン交換膜により、陽極室と陰極室とに分割された電解槽で、塩化アルカリ金属塩水溶液を電解して水酸化アルカリを製造するに際して、陽イオン交換膜の陰極に向い合う面に化学メッキ法により金属を固着し、金属を固着していないもう一方の面を陽極に接触支持させ、且つ該膜と陰極とは間隙を持たせて、塩化アルカリ金属塩水溶液を電解することを特徴とする水酸化アルカリの製造方法。</p>
17	57-64022 (57. 4. 19) (小堤 稔, 金子 博 庄司 修, 清水 明彦 (桂産業(株)と共願)	61-35203 (61. 8. 12)	1368936 (62. 3. 11)	ビニル系またはジエン系単量体の重合方法	<p>1 ビニル系またはジエン系単量体または、これらを主体とし、これらと共重合可能な単量体共存の単量体を、水性媒体中で重合あるいは共重合するに当り、用いる重合機器内表面に、一般式</p> $\begin{array}{c} \text{H} & & \text{H} \\ & \diagdown & / \\ & \text{C} - \text{R} - \text{C} \\ & / & \diagdown \\ \text{O} & & \text{O} \end{array}$ <p>(式中、Rは炭素数0~6の飽和脂肪族炭化水素を表わす)で表わされる化合物(A)と、一般式 $\text{H}_2\text{N}(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{NH})_x(\text{CH}_2)_y\text{NH}_2$ (式中、xは0~5であり、yは1~6である)で表わされる化合物(B)との混合物及び/または反応生成物を塗布し、重合を行なうことを特徴とするビニル系またはジエン系単量体の重合方法。</p> <p>2 ビニル系またはジエン系単量体または、これらを主体とし、これらと共重合可能な単量体共存の単量体を、水性媒体中で重合あるいは共重合するに当り、用いる重合機器内表面に、一</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					一般式 $\begin{array}{c} \text{H} & & \text{H} \\ & \diagdown & / \\ & \text{C} - \text{R} - \text{C} \\ & / & \diagdown \\ \text{O} & & \text{O} \end{array}$ (式中, Rは炭素数0~6の飽和脂肪族炭化水素を表わす) で表わされる化合物(A)と, 一般式 $\text{H}_2\text{N}(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{NH})_x(\text{CH}_2)_y\text{NH}_2$ (式中, xは0~5であり, yは1~6である) で表わされる化合物(B)との混合物及び/または反応生成物と, 骨格構造にジフェニルスルホンを持つ化合物(C)との混合物を塗布し, 重合を行なうことを特徴とするビニル系またはジエン系単量体の重合方法。
18	53-42151 (53. 4.12)	61-36502 (61. 8.19)	1369502 (62. 3.25)	含フッ素エーテルの製法 (近藤 赫文, 柳原 忠久)	1 パーフルオロオレフィンエポキシライドと $\text{CF}_2\text{ClCFClCF}_2$ を触媒の存在下で反応させ 一般式 $\text{CF}_2\text{ClCFCl}-\text{CF}_2-\text{O}-\underset{\text{X}}{\underset{ }{\text{CY}}}-\text{CF}_2-\text{O}-\underset{\text{X}}{\underset{ }{\text{CY}}}-\text{C} \begin{array}{l} \diagup \text{O} \\ \diagdown \text{F} \end{array}$ (X及びYはフッ素又はトリフルオロメチル基。nは0から50の整数) を得ることを特徴とする含フッ素エーテルの製法。 2 パーフルオロオレフィンエポキシライドと $\text{CF}_2\text{ClCFClCF}_2$ を触媒の存在下で反応させ 一般式 $\text{CF}_2\text{ClCFCl}-\text{CF}_2-\text{O}-\underset{\text{X}}{\underset{ }{\text{CY}}}-\text{CF}_2-\text{O}-\underset{\text{X}}{\underset{ }{\text{CY}}}-\text{C} \begin{array}{l} \diagup \text{O} \\ \diagdown \text{F} \end{array}$ (XおよびYはフッ素またはトリフルオロメチル基。nは0~50の整数) を得, 更に加水分解, エステル化, または金属塩化によりヒドロキシ基, アルコキシ基, または $-\text{OM}$ 基 (Mはアルカリ金属) に転換することを特徴とする含フッ素エーテルの製法。
19	53-136314 (53.11. 7)	61-36750 (61. 8.20)	1369515 (62. 3.25)	スチレンスルホン酸アルカリ金属塩類の製造方法 (玉林 木原 範三, 服部 達夫 啓一)	1 β -ブromoエチルベンゼンをアルキル硫酸の存在下で, 無水硫酸でスルホン化し, 次にアルカリ金属水酸化物と水中で反応せしめるスチレンスルホン酸アルカリ金属塩類の製造方法。
20	56-86889 (56. 6. 8)	61-38922 (61. 9. 1)	1369535 (62. 3.25)	炭化水素樹脂の製造方法 (田中 清水 浩二, 岩下 明彦)	1 石油類の熱分解の際に生成する分解油留分のうち, 140~240°C の範囲内の沸点留分を分解蒸留して, 共役ジオレフィン を 1 wt% 以下, 芳香族不飽和炭化水素成分を 30~55 wt% で, ジシクロペンタジエンを下記の式で表わされる範囲に調整した留分を原料とし, フリーデルクラフツ型触媒の存在下に 0~60°C の温度で重合することを特徴とする炭化水素樹脂の製造方法。 $\frac{x}{10} - 2 < y < -\frac{x}{4} + 20$ (但し, $y > 0$) y ; ジシクロペンタジエン濃度 wt% x ; 重合温度 °C

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
21	53-15612 (53. 2. 14)	61-41339 (61. 9. 13)	1370972 (62. 3. 25)	光学活性アミノ酸エステルのラセミ化方法 (高橋 里次, 戸井 滋二) (味の素, 相模中央化学研究所と共願)	1 光学活性 α-アミノ酸エステルを, その0.05~0.5倍モルの酸触媒の存在下, ケトン中で 90°C 以上の温度で加熱することを特徴とする光学活性 α-アミノ酸エステルのラセミ化方法。
22	51-135276 (51. 11. 12)	61-39944 (61. 9. 6)	1371921 (62. 4. 7)	核酸関連化合物の分離法 (清田 徹, 清水 明彦, 加藤 芳男, 橋本 勉)	1 核酸関連化合物をクロマトグラフィーで分離する方法において, 担体として下記の  ハロアルキルスチレン単位を含む多孔性ゲルにチミン, ウラシル及びアデニンからなる群より選ばれる1種類の核酸塩基を結合せしめた担体を使用することを特徴とする核酸塩基, ヌクレオシドおよびヌクレオチドの分離法。(ただし, nは1~3の整数で, Xは Cl, Br, I のいずれかである)
23	57-102136 (57. 6. 16)	61-40241 (61. 9. 8)	1372081 (62. 4. 7)	クロロプレンゴムの製造法 (喜多 篤)	1 クロロプレン又はそれと最大50重量%までの共重合可能な単量体の混合物を, その0.5~5重量%の樹脂酸誘導体および0.1~10重量%の下記一般式  (ただし, 式中Rは水素原子, 低級アルキル基, Xは水素原子, 低級アルキル基, ハロゲン原子, 水酸基, Yは水素原子, カリウム, ナトリウム, 第四級アンモニウムであり, nは10~20000の整数である) で表わされるポリスチレンスルホン酸もしくはその誘導体の存在下, アルカリ性水性乳化液中で重合させることを特徴とするクロロプレンゴムの製造法。
24	52-1890 (52. 1. 13)	61-41945 (61. 9. 18)	1374508 (62. 4. 22)	接着方法 (近藤 輔仁, 新原 英雄, 佐藤 真一)	1 高周波電場内に持込まれたエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物を誘電損失による自己発熱により活性化させると同時に基材と圧着させることを特徴とする接着方法。
25	55-135121 (55. 9. 30)	61-25368 (61. 6. 18)	1374556 (62. 4. 22)	粒状無定形アルミノ珪酸塩の連続製造方法 (相本 道行, 河村 秀雄, 浅野 精一, 宮崎 弘)	1 アルミン酸アルカリ水溶液を第1段反応槽に連続的に供給し, かつ, 珪酸アルカリ水溶液を第1段反応槽を含めた複数段の反応槽に分割供給し, この際, 珪酸アルカリ水溶液は第1段反応槽で得られる反応生成物が, 最終段反応槽で得られる反応生成物総量に対して10~30重量%になるように滞在時間10分以上で連続供給し, 各段反応槽における攪拌強度を, 反応系に剪断力を与え 10~50 m/sec の線速度の乱流を起こさせるように保持し, アルミン酸アルカリ水溶液と珪酸アルカリ水溶液を多段反応槽を用